

「料理そのものに力がある」（菊地朱雅子・編集第一部部長）と、写真やレイアウトは直球勝負。項目ごとに著者が語る、その料理を選んだ理由や、幼いころの食の思い出などのコラムが読者の郷愁をかきたてる。

食品偽装など食の安全にかかわる問題が相次いだほか、著者のテレビ出演も売り上げを後押しした。「肉じゃがにはだしが不要など、余計なことをしなければおいしくなる」というわかりやすさが伝わったようだ」と菊地氏。編集部には中高年男性から「カップは何ccですか？」といった問い合わせもあるという。

ベストセラー

ビジネス書

- ①タクシー王子、東京を往く。 川鍋一朗著（文芸春秋）
 - ②バカ社長論 山田暎道著（日本経済新聞出版社）
 - ③10年先を読む長期投資 沢上篤人著（朝日新聞出版）
 - ④見える化で社員の力を引き出すタイムマネジメント 行本明説編著（東洋経済新報社）
 - ⑤「基軸は人」を貫いて 井上礼之著（日本経済新聞出版社）
 - ⑥金融権力 本山美彦著（岩波書店）
 - ⑦カーライル 鈴木貴博著（ダイヤモンド社）
 - ⑧脳を活かす勉強法 茂木健一郎著（PHP研究所）
 - ⑨グーグルに勝つ広告モデル 岡本一郎著（光文社）
 - ⑩出逢いの大学 千葉智之著（東京経済新報社）
- （5月25日から5月31日まで、東京・八重洲ブックセンター本店）

■『舞台を観る眼』渡辺保著 演劇評論家のエッセー集で、歌舞伎、舞踊、現代演劇まで幅広い題材をとりあげ、その魅力を考える。中で白洲正子との私的な交流を記す文章に味わいがあり、その見識におそれなしつつ、引き込まれていく過程が面白い。舞台の見聞に加え、三島由紀夫のせりふ、折口信夫の六代目菊五郎観などにも触れる。（角川学芸出版・一、九〇〇円）

■『地域づくり新戦略』片木淳ほか 編 経済のグローバル化が進む一方で衰退著しい地域社会。地域経済をいかに活性化させ、にぎわいと豊かさを取り戻すか。本書では人口減少にあわせ計画的に都市を縮小する「スマートシュリンク」や、メディアを利用した地域再生など、斬新な提言を打ち出している。自治体関係者だけでなく住民にも啓発的な内容だ。（一芸社・一、九〇〇円）